

大阪市育成会小規模作業所

小規模通所授産施設連絡協議会

職員等研修会・交流会に参加して

地域活動支援センター

はばたく

福井武巳

定をあらかじめしておくとく。」というのがあるそうです。

七月二十六日(土)小規模作業所・小規模通所授産施設連絡会職員研修会で、講師に大阪市成年後見支援センター所長 村江昇氏をお迎えし「成年後見制度について」講演していただきました。

とても難しいテーマにもかかわらず、用意していただいた「成年後見制度」にまつわる二十五問の問題をお隣の方、会場の方とともに考えていくことでとても勉強になりました。「成年後見制度」の考え方の背景の一つに、自己決定権の尊重「現有(残存)能力を活用する。能力のあるときに能力喪失後の決

東住吉区

やすらぎの家作業所

榎本わか

解していたとしても、その相談相手がこのことを理解しているかはわかりませんし、たとえ理解していたとしても、自分に不利益な決定を下すこともあると考えられます。本当に考え出したらわからないことばかりです。

去る七月二十六日、小規模作業所・小規模通所授産施設連絡協議会の職員研修会、職員交流会が開催されました。

員の交流会が行われました。交流会の開始時間は午後一時半と暑い中ではありましたが、職員研修会の後ということもあって各作業所などから多くの参加者があり、賑やかなものとなりました。

自己決定権の尊重と一口にいっても、実際に自分が制度の活用をしようと思った時に「自分にどれだけの判断能力があるか。」「能力がなくなったら後どういった決定をしていけばよいか。」など正直自分で判断するのは難しいです。

しかし、実際には事故、病気が原因で制度利用を考えることもあるだろうし、人は必ず老いていきます。その時に「さあどうしよう。」ではなく、今から将来のことについても考え、制度についてだけでなく、さまざまな面から準備しておく必要があるのだと実感させられました。

研修会は成年後見制度についての講演で、その要点を大変判りやすく話していたできました。恥ずかしながら成年後見制度についての知識はまったく無かったのですが、○×形式での知識のチェックテストとその説明を受けることで、制度についての知識が無理なくスムーズに身についたように感じました。

普段はふれあうことのない職員同士が集う貴重なひと時ということで、面識のない職員同士は自己紹介を兼ねて情報交換をしたり、面識のある職員は挨拶代わりに各々の作業所の現状を軽く報告しあつたりと、交流会の開始前から話が盛りあがり活気に満ちた様子でした。

そうすると自分以外の人に相談することになると思います。相談する相手は、親・配偶者・兄弟・子などの親類になる場合もあるだろうし、友人・知人になることもあると思います。

自分では、なかなか学ぶ機会がないなか、研修を通して有意義な時間をすごすことができました。本当にありがとうございました。

まだまだ認知度の低い制度だとは思いますが、需要が急速に増加していく今、もつと一般的な制度になるよう広めて行ければ良いと思います。

開始後もバイキング形式の料理を取りに立ちつつ談笑したり、料理を持って他のテーブルに行き来したりと終始話が止むことはなく、交流会の間中全体的に和やかな雰囲気でした。

また、制度のことを理解できているか、たとえ自分には十分に制度のことは理

解していただくこと、その相談相手がこのことを理解しているかはわかりませんし、たとえ理解していたとしても、自分に不利益な決定を下すこともあると考えられます。

その後、場所を移して職

交流会に参加するのが